

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

2006年12月27日

東京都千代田区二番町12-1 3F

ある小学校の昼休み

群馬・小学校教員

高学年担任のKさん。給食指導が終わり職員室に戻ってきた。セルフサービスでコーヒーをカップに注ぎ（すぐ飲めるようになっている）自分の机に持ってくる。「家に仕事を持って帰りたくない」と言ってテストの丸つけを始める。

昼食後、歯磨きをする人が多くなった。歯ブラシをくわえて、コピー機の前を行ったり来たりしているOさん。子どもとの約束の時刻が近づいていると言いつつコピーを取っている。

歯を磨きたいのに図書室のことが気になり歯磨きぬきで図書室に向かったTさん。司書が出張のため、昼休み中に図書室で子どもたちの様子を見ている。気になる子どもの1人、A君が本探しと読書に没頭しているので、図書委員に任せるわけにはいかない。図書室に向かう途中、給食の後片付けをしている子どもに出会う。（13時5分）「休憩時間に入っているのに、担任のNさんはまだ休めないな」と思いながら廊下を歩く。

普通教室では、子どもたちのノートを見ながら丸つけに余念のないMさん。教室内にいる子どもたちとおしゃべりをしながら手は動き続けている。単学級で36人のノートを見るのだから、昼休みいっぱいかかりそう。

自分の健康と体力維持のため、昼休みは校庭に出ているSさん。元気な子どもたちにとって「遊んでもらえる先生は最高」という言葉が返ってくる。

一休みしたいと職員室に戻ってきた先生方も、昼休み終了5分前の合図がなり、カップに残っているコーヒーをあわてて飲んで、清掃担当の場所に出かける。

授業時間はもちろん休み時間も、職員室にほとんど先生方の姿が見られないのが現状だ。